

ケーススタディ(2007 年度)

投稿日時 2007-6-18 19:44:20 | トピック: MBA 公開講座

日 時 : 2007 年 7 月 22 日(日) 13:00~15:00

テーマ : ケーススタディ「海外子会社における意思決定はどうあるべきか？」

場 所 : 同志社大学寒梅館 2 階 211 教室

担当教員 : 同志社大学大学院ビジネス研究科教授 北 寿郎

ケースの概要 :

自動車部品メーカ K 社の海外子会社の副社長として赴任した S 氏は着任早々、重大な意思決定を迫られた。新しい生産ラインを構築するにあたって、現地サイドはコスト面で有利な独自の技術でのライン構築を主張しているのに対し、日本本社は日本本社工場で実績のあるラインをそのまま使うべきだと主張する。どのような決断をしても、いろいろな問題が出てくることは目に見えている。それだけに S 氏の意思決定は慎重にも慎重を期さねばならなかった。